

記事詳細

記事一覧に戻る

鹿工高生が現場見学 (2014/11/08 4面)
現場の迫力に関心 / 建協

県建設業協会(川畑俊彦会長)は7日、鹿児島市で鹿児島工業高校の土木系2年生(38人)を対象に現場見学会を開いた＝写真＝。県および鹿児島市の協力のもと、生徒らは普段立ち入ることのない現場の迫力に関心を寄せていた。

同日は、谷山地区連続立体交差事業と西之谷ダム、鴨池公園運動施設改修の3カ所を巡回。

このうち、事業主体が鹿児島市の谷山地区連続立体交差では、九州旅客鉄道㈱発注の谷山高架永田川B新設他3を見学。市の担当者が概要やメリットについて触れ、「高架化することで15カ所あった踏切もなくなり、地域全体の相互交流が図れる」と説明。また、施工業者の前田建設工業・鮎川建設JVの担当者が仮線方法の施工技術や主桁製作の過程を現場近くで解説し、生徒らは巨大構造物を前に食い入るように見入っていた。



終了後は、県建設センターで木山裕継副会長と安藤司専務理事ら役員5人が高校生と意見を交換。生徒から「建設業における3Kの実態は」との質問に、鮎川利朗理事は「外での仕事なので大変さはある」と前置きした上で、「ものを造る喜びを感じながら仕事に取り組んでいる」と説明。また、「協会としても週休二日制の導入や残業なしでの工程が組めるように発注官庁と協議している」と付け加えた。



このほか、「高校時代に取得していた方がいい資格は」「建設業が公務員よりもいい点は」などの質問があり、役員らは丁寧に答えていた。

木山副会長は「今回の見学会で土木の魅力を感じてもらったのでは。建設業は高齢層の技術者が多く、若手技術者が少ない。一人でも多くの生徒に建設業に入ってもらいたい」と促した。



[更新:2014/11/10 No:662337]